

「秋季大会の反省から2ヶ月」

秋季大会が終了し、中間テストまでを一つの区切りとしてオープン戦に取り組んできました。秋季大会の反省と、その後の課題として

- ① 打撃の全体的底上げ（下位打線の充実・途切れない打線）
- ② 走塁の意識を高める（アウト覚悟の積極的走塁への挑戦）

この2点に重点を置いて練習してきました。

①の打撃の全体的底上げについては、下位打線を担っていた打者へのマンツーマン個別練習の成果から、成長と改善の傾向にあります。下位打線からヒットを打ち、チャンスを作る場面も見られるようになりました。マンツーマン個別練習、少数精鋭の少人数だからできる我々の強みを生かし、新しい可能性が芽を出しつつあります。

②の走塁については「暴走OK、失敗OK、アウトになってそこから学ぶ」という超積極的姿勢で取り組んでいます。その結果、意外とアウトにはならないものだと感じました。つまり、今までの走塁は消極的な取り組みであったことがはっきりとしました。また、走塁も打撃と同じように、一球一球バッテリーと駆け引きをして勝負できることが走塁の面白さだと思います。この点について、チーム内での共通の認識としていきます。

そこで発見したこと、気付いたことは、走塁の楽しさに気付いていない選手が多いということ。セオリーが、なぜセオリーとして存在して定着しているのか。わかっているようで実は、あまりわかっていないことを発見しました。我々指導者も含め再確認しました。

新たな課題とともに12月からのオフシーズンを迎えるまで、まずはチームの底上げ、個々の能力を高めていきたいと思います。

それにしても、9月は雨ばかりでした。オープン戦も多くが中止になってしまったり、満足にグラウンドで練習ができなかったり厳しい状況でした。しかし、天気には勝てません。受け入れるしかありません。これも試練、試されています。「課題＝希望」です。希望ばかりの現チーム。今後の活躍にご期待下さい。